



一緒にいるから

施設長 松島栄一

私事で恐縮ですが、我が家の次男（ダウン症）が明德短期大学へ通って一年目の課程が先日終わりました。2年生とのお別れ会だったようです。来年はどのようにとの問いかけに、意外にも「友達がみんないなくなるから僕もやめようかな」との答えでした。聴講生である彼は、受講できそうな科目を選んでいるため、1年生の科目と2年生の科目が混在しており、どうやら2年生との付き合いが多いようです。短大の先生方の話でも、学生も2年生のほうが声をかけたりするなど付き合いが上手で、ということでした。そんな中で誕生日には色紙をもらったり、「洋平、洋平」と気軽に声をかけてくれたり、息子も「よう！」などと応じている姿を見るといい経験をさせてもらったと思います。

はじめは、ほぼ初めての経験である、一人で電車・バスでの通学。片道40分ぐらい歩くことなど随分とハードルが高くて大丈夫かと思っていましたが、意外にも意欲的にしかも一度失敗があつたくらいでしっかりと通うことができました。その原動力となったのは本人の意欲だと痛感します。要するに楽しかったのだと思います。障害のある人ももっと進路の選択肢があつていいのではないかと大上段に構えたつもりもないのですが、本人にとっては楽しいかが大切なわけです。よほど楽しかったのだと思います。おかげさまで得るもの（電車にのること、買い食い・・・）がたくさんありました。

周りの学生さんはどうだったのでしょうか。いろいろ思うことがあります。一緒にいることでわかること、やってみることで得ることがたくさんあつたと聞きます。それはお互いさまなのですね。もちろん先生方もかわいがってくれ、必要な配慮もしていただきました。学生さんたちもはじめは緊張していたようですが、今では一人の仲間としてみてくれているようです。一緒にいるからこそその出来事だと思います。

2月3月の予定

2月20日(月)～健康チェック週間

2月23日(木)～26日(日)；茂原アスモ・「生き生き展」開催

3月 3日(土)：教育講演会 ※別欄参照

3月20日(火)：春分の日(休業日)

3月23日(金)：外出日

3月26日(月)：今年度活動最終日～「2011年度けやき」解散式～

春季休業日 3月27日(火)～4月2日(月)

※春季休業日の日程が再度訂正となっております。御確認下さい。

<お詫び> 春季休業期間の再度訂正のお知らせ

前号「木洩れ日」でお知らせいたしました春季休業日の予定ですが、申し訳ありません。都合により、さらに以下のように再度訂正をさせていただくこととなりました。御確認下さい。御迷惑をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

春季休業期間：3月27日(火)～4月2日(月)

※年度初めにお配りした年間予定表とも異なります。よろしくお願いいたします。

～2月「けやき」

ミニ・ギャラリー①～

<2月13日外出>



ここはどこでしょう？



そして、どこへ行くのでしょーか？⇒答えは4頁

教育講演会のお知らせ

九十九会では毎年、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目指して、子どもを取り巻く様々な問題を中心にすえながら教育講演会を開催しております。今年度も以下の通りに開催されます。参加は無料です。よろしければ是非、お越し下さい。

「認めるだけで子どもはのびる」

講師 原坂一郎先生

現在、KANSAI こども研究所所長、関西国際大学・教育学部非常勤講師&保育士、FMラジオパーソナリティ、新聞コメンテーター(朝日・読売・毎日)などとして活躍中。

と き：3月3日(土) 開場 13:00 開演 13:30 閉演 15:30

ところ：睦沢町農村環境改善センター

入場無料 (事前の申し込みは不要です。)

※保育あり。保育御希望の方はお電話で2月24日(金)までにお申し込み下さい。

<問い合わせ> 0475(44)1214 つくも幼児教室

共催：榎の木学園、つくも幼児教室、
ときわぎ工舎、一松工房
睦沢町教育委員会

なかなかニュースでは報じられない「障害福祉情報」

是非、知って欲しい！

「障害者自立支援法廃止に向けた厚生労働省の新法案」

障害者自立支援法違憲訴訟で和解された同法廃止の時期が迫っています。

違憲訴訟団が国と交わした同法廃止などの和解合意に基づいて、その後、賛成派、反対派、中立派など様々なメンバーが集まった内閣府障害者制度改革推進会議でようやく昨年 8 月末に「骨格提言」が取りまとめられました。

そしてつい最近、その障害者制度改革推進会議で、その「骨格提言」を受けて、新法制定についての厚生労働省案が示されました。(希望される方は、資料をこちらでお渡しできます。)

私は内容を見る前に「何でこんなに行間を空けて…紙の無駄だなあ」と思ったのです。しかし、読んでみてその内容の無さに「・・・」。おおよそ「骨格提言」と比べるとか、比べないとか、そんなレベルではありません。あまりに貧弱で内容のない今回の「厚生労働省案」。普通の感覚なら、「骨格提言」を必死になってとりまとめてきた推進会議メンバーの前にはとても怖くて出せない内容です。「お粗末」というのでしょうか、「やる気が無い」というのでしょうか、本当に馬鹿にしているとしか思えません。

今回の厚生労働省案の内容は、簡単に言えば、ちょっと前にほとんど審議も無く可決された「改正障害者自立支援法」(この 4 月からその多くが施行されます。)とほとんど変わらず、法律名を変えるだけに等しいものです。基本的には新しい内容はほとんどありません。「違憲訴訟の和解合意で明記された『自立支援法廃止』とは、法律名を架け替えることですよ」と笑われているようにしか思えません。

例えば、障害を持っているから食事や排泄を一人で出来ない人が介助サービスを受けることで利用料金が発生することは問題ではないか、という私たちの問いに、厚生労働省は「確かにサービス利用は原則有料だが、改正法で低所得の者に対しては実質的に無料となる対策をしているから問題はない」といいます。

しかし、ただお金がかからねばいいということではないのです。問題は「原則有料」というところが問題なのです。同じ人間として、障害を持っているから必要となる支援が「原則有料」となっていることを問題としているのです。簡単に言えば、同じ人間として、食事や排泄のための介助利用は「原則無料」であるべきだ、と訴えているのです。

その他にも、「骨格提言」では障害分野における多くの課題を、今までの付け焼刃的な政策ではなく、根本の人間のあり様、社会のあり様としてどうあるべきなのかを検討してまとめられたのですが、それを鼻で笑うかのように、違憲訴訟和解のもとにもかかわらず、改正障害者自立支援法の名前だけを取り替えるような案を出してくる厚生労働省の態度は許せない以上に、あまりに信じがたい。これを信じってしまうと、今回の件のみならず日本という国で一体何を信じればいいのか分からない。ここまでこの国は崩れてしまっているのか。

声を挙げたいと思います。ただ、新法案の国会上程予定が3月13日とのことで時間がありません。とりあえず昨年末にお配りした「署名」は手近にある手段ですので、今号、あらためて署名用紙を同封させていただきます。御賛同の方は是非、お願いいたします。まずは取り急ぎ、この状況を皆さんにお知らせし、皆さんがさらに情報を確認された上で、あれこれお考えいただければ、と思います。(西)

～2月「けやき」ミニ・ギャラリー②～

<2月13日 上総一宮駅から電車に乗って、鎌取ジャスコショッピング>



JR 上総一宮駅にエレベーターが付き、車椅子の仲間とともに久しぶりの電車外出！
外食にデザート、それからショッピングも楽しむことができました。

お願い 「けやき」の活動の様子画像を今年度も「木洩れ日」や「生き生き展用のポスター」「けやきホームページ」などに掲載したいと思っております。掲載を希望しない利用者・保護者の方は、お手数ですが「けやき」(担当；西)までご連絡下さい。

長～い編集後記▼先月、東大地震研究所が「M7級の首都直下型地震発生の確率が今後4年以内に70%」という試算を発表され、思わず「うわっ!」と思ったのですが、今月初めには、「その後のデータを加えた再計算で『50%以下』となった」とのこと▼もうすぐ東日本大震災から1年が経とうとしていますが、今頃になってようやく復興庁が誕生しました。相変わらず復興は厳しい状況です。原発事故に至っては本当のところ原子炉がどうなっているかは、あくまで推測の域を出ない状況が続いています▼復興が進まない理由の一つには、国が復興の将来のビジョンを示さないことにあるように感じます。原発周辺の立ち入り禁止・警戒区域などを今後どうするのか。今後も津波被害の恐れのある津波被災地区の町をどうするのか。もちろん、簡単な問題じゃありませんが▼「けやき」も同様です。申し訳ないことになかなか活動拠点整備が進まない。それは、とにもかくにも「けやき」の将来ビジョンが明確でないからです。資金が潤沢でない「けやき」では「いいことだからやる」ではすぐに行き詰る。事業の存続が不可能になる事態は絶対許されない。だから今後の我が国の障害福祉がどんな方向に向うのか、国の描くビジョンをしっかりと見定めることは不可欠になります。でも国は、本文「障害福祉情報」でも書いた通り、その場しのぎの付け焼刃的な方向性しか示さない▼では何も出来ないのか?いえいえ、実は私にもあなたにも「自分の」あるいは「自分の立場での」ビジョンは責任もって描けます。そしてそれに基づいてやってみることが出来ます▼「混乱」や「困ったこと」なんて世界に満ち満ちています。「誰か」や「何か」のせいにすることを繰り返して、今ここに生きていることを手放してしまったら、例えば東日本大震災は私たちにとって「七転八倒」の経験でしかなくなってしまう。今、ここに生きることを手放さないためにも、出来ることからビジョンを描いてやってみよう。震災対策でもいい。自立支援法問題でもいい。家族のことも、自分の人生についてもいい。そして「七転八倒」を「七転び八起き」にしよう。それはどんなに小さな一歩でも必ず、隣の人や社会にも変化をもたらしていく。▼先日、地域の美容室に仲間が初めて行ったそうです。保護者の方は「思い切って行ってみました。でも、いやあ、落ち着いていなくて大変でした(笑)」と言っていました。その「一歩」、スゴイ素敵です!!

(河童が本当にいると皆が思えば、必ず昔のように河童が見られるようになると信じる西)